

参加費は  
無料だよ!



# 「はなのわペアレント・トレーニング」参加者募集!

子どもの行動に「困ったな…」「どうすればいいのだろう…」など、悩みを抱えていませんか。ペアレント・トレーニングとは、お子さんのさまざまな行動に対してどのような対応が効果的なのか、“子どもとの関わり方のコツ”を学ぶプログラムです。親と子がより良い関わり方で家庭生活が送れるよう、同じ悩みを持つ保護者の皆さんと一緒に学んでみませんか。

期日▼5月29日、6月19日、7月10日、9月11日(全て水曜日、全4回)

時間▼午前9時30分～11時15分(午前9時20分受け付け開始)

場所▼なごみ・総合支援センター

対象▼村内在住で、おおむね3歳児～小学3年生の子を持つ保護者

定員▼先着20人

内容▼▽第1回…オリエンテーション、子どもの行動を3種類に整理しよう、好ましい行動を増

やすには▽第2回…好ましくない行動を減らすには▽第3回…子どもの協力を増やす方法▽第4回…リラックスした雰囲気の中での情報交換

講師▼根本仁子さん(ペアレント・トレーニングリーダー)

申し込み・問い合わせ▼5月1日(水)から16日(木)まで(土・日曜日、祝日を除く)に、電話で、子ども発達支援センター(なごみ・総合支援センター内 ☎282-3443)へ申し込みください。

ふるさと歴史訪  
〜自然を探して〜

## 東海村のマッコウクジラ

令和4(2022)年、歴史と未来の交流館に、一本のマッコウクジラの歯(写真)が届けられました。寄贈者は「漂着軽石」(「広報とうかい」(令和5年4月25日号)に掲載)と同じ、村内在住の反田孝美さんです。発見したのは平成30(2018)年ごろで、場所は豊岡海岸北縁の久慈川河口のテトラポットの先端とのことでした。長さが15・7センチメートル、最大幅が6・2センチメートルの成体と判断される歯です。

東海村でのマッコウクジラ漂着記録は、豊岡海岸での子どもの個体だけのようです。よって、このマッコウクジラの歯は東海村で最初の貴重な記録といえます。一本の歯だけが発見された理由は、沖合で死んで海底に沈んだクジラから歯が抜け落ち、平成23(2011)年に発生した巨大地震の津波で、海底にあった歯が打ち寄せられたためと考えられます。そして、その中の一



【マッコウクジラの歯】

本が偶然発見されました。肉食哺乳類で最大のマッコウクジラは、オスの体長が16〜18メートルとなります。メスの体長はオスの半分くらいです。漢字では「抹香鯨」と書きます。熱すると抹香のような芳香を放つ、腸内にできた結石由来します。深さ2000メートル付近まで潜り、ダイオウイカを餌としていることでも有名です。

東海村文化財保護審議会委員

菊池 芳文

昔、クジラの研究で和歌山県太地町を訪れたとき、捕鯨をしていたという古老から聞いた「昔は、クジラが浜に打ち上がると「お宝」が来た」と村中が盛り上がり、食用、燃料、肥料にと無駄なく利用したものだ」という話を思い出しました。また、歴史と未来の交流館の中泉雄太学芸員より「白方白根製塩遺跡からクジラの巨大な焼けた脊椎骨が出土した」との話も伺いました。昔の東海村でも、クジラを海の恵みとして巧みに利用していたことが想像されました。